

# 世界遺産「日光の社寺」を守る砂防の広報

穂田 雄高

日光砂防事務所 調査課 (〒321-1414 栃木県日光市萩垣面2390)

日光砂防事務所の使命の一つに世界遺産「日光の社寺」を守ることがある。しかし、砂防事業は山奥で行っていることがほとんどであり、広く人々に知られることが少ない。そのためこれまで広報活動を行ってきたが、近年のインバウンドの増加と観光目的がモノ消費からコト消費へシフトしていることを鑑み、より充実して満足度の高い広報を目指して従来の広報を改善することが必要となってきた。

今回、パンフレットや看板をより分かりやすく魅力的になるように職員自らが考え、内容を刷新した事例について紹介する。

キーワード 砂防、広報、インバウンド、多言語化

## 1. 日光における砂防事業

日光地域は世界文化遺産の「日光の社寺」を始めとした重要な歴史的・文化的遺産と豊かな自然環境など恵まれた観光資源を基盤として発展し、現在では国際観光都市「日光」として年間1,200万人超の観光客が訪れる。

世界文化遺産地区の北を流れる稲荷川は暴れ川と呼ばれ、たびたび大規模な土砂災害が発生した。日光市街地や多くの文化財を守るため、直轄事業として大正7年から昭和初期にかけて砂防堰堤を施工した。

施工された稲荷川砂防堰堤群（8基）は平成14～15年に国の登録有形文化財に指定されている。稲荷川上流には標高2,000mを超える山々があり、渓谷、滝等の豊かな自然環境に恵まれているため、工事用道路を散策路として解放し外国人観光客も訪れる地域になっている。



図-1 稲荷川砂防堰堤群

また、外国人の観光客が多い世界遺産登録区域においては輪王寺大猷院の裏にある大猷院沢で砂防堰堤の整備を行っている。

## 2. 今までの広報

今までの広報活動は山奥で行っている砂防事業を知ってもらうことと、防災意識の向上の2点を主眼にして展開してきた。主な取組としては日光市のイベントへのブース出展や小学校での防災教室、地域の集まりでの講演などを行ってきた。これらの取組はアンケート等を確認するとある程度は砂防事業の理解を深めるとともに、事業に対して好印象を持ってもらえた結果を得ている。

## 3. 現状の課題

今までの広報は小学校の防災教育や地域の集まりと言った別のプログラムに砂防の広報を組み込んでもらっているため、情報の受け手側が自発的に興味を持って聴講したわけではない。現に別のプログラムに組み込まれていないイベントでのブース出展では立ち寄り人は1時間で数人程度であった。

また、日光は国際観光都市として多くのインバウンドを誘客している。目的は世界遺産「日光の社寺」の観光が9割以上と圧倒的である。日光に限らずインバウンドの観光目的がモノ消費からコト消費にシフトしてきており、文化財の説明のみならず我々の行っている公共事業

の説明についても知って満足してもらえる内容にすることが必要となっている。これまでも砂防事業の広報として英語版のパンフレットを作成していたが、日本人向けの説明を直訳した英語となっているため、日本特有の文化や背景を理解していないと理解出来ないなどの課題があった。

さらに、近年では英語圏のみならず非英語圏のヨーロッパ地域やアジア地域からの観光客も増えている。そのため、英語以外の言語への対応も必要となっていた。

#### 4. 今回の取組

前述の背景と課題を踏まえて、今回は主にインバウンド向けの広報としてパンフレットと看板について理解しやすい英語版の作成を実施した。

##### (1) データ収集

英語版のパンフレットと看板を作成するに当たりデータ収集を行った。一口にインバウンドと言ってもその属性は様々である。さらに砂防事業の説明と言うただでさえ理解してもらうことに苦勞する内容であれば、英訳しても外国人観光客には伝わりづらい。

今回、パンフレットと看板は英訳のみとしたが、広報施設であるSABOインフォメーションコーナーの展示パネルについては英語以外の言語のものを作成した。

インバウンドの国籍・地域に関するデータから日光地区を訪問する外国人の国籍、地域の言語は台湾（中国語（繁体））、フランス語、スペイン語であることが判明した。



図-2 日光地域の国・地域別訪問者数の割合

##### (2) 観光庁の指針

パンフレット等の翻訳に当たっては観光庁の「魅力的な多言語解説作成指針」（平成31年3月版）を参考にした。この指針は外国人旅行者にとって読みやすく分かりやすい魅力的な解説文を作成することを目的としており、表示言語の不足や表記方法のばらつき、誤訳などをなくし、地域固有の文化、歴史、自然等の情報を正しく分か

りやすくかつ魅力的に発信するために作成された。

##### (3) その他の刊行物の活用

新たな看板やパンフレットの作成にあたって既存の刊行物も活用した。

##### (4) 砂防事業の翻訳

我々が行っている事業を一般の方に分かりやすく説明することは難しい。特に砂防事業は山奥で行っていることがほとんどであり、砂防堰堤を見たことがある（砂防堰堤であると認識していない場合も含めて）人も少ない。日本人に説明することが難しいものを外国人に説明することはさらに難易度が上がる。

今回は既存の日本語のパンフレットを新たに多言語化した例について紹介する。そのステップを以下に示す。

##### a) 翻訳用の日本語の作成

既存パンフレットに書かれている日本語は日本人として生まれ育った人、あるいは日本の文化について勉強した人が理解できる内容となっている。例えば石積砂防堰堤を説明するにあたって日光の石造文化と併せて説明するには、その際に用いる寺院や神社について、日本人であれば日本の仏教や神道、日本史を理解しているが、初めて日本を訪れた外国人には理解が難しい。そのため既存パンフレットの日本語を「翻訳用の日本語」に書き換えることから始めた。以下に例示する。

表-1 既存パンフレットの表記

滝尾神社  
日光二荒山神社の別宮で、日光三社権現の一つ。近年はパワースポットとしても人気があります。石の鳥居は「運試しの鳥居」と呼ばれ、鳥居にあいた小さな穴に石を3回投げて、一度でも通ると良いことがあると言われています。また、無念橋は、自分の年齢の歩数で橋を渡ると願いが叶う「願い橋」としても知られています。

表-2 表-1の翻訳用の日本語

滝尾神社  
高野山（和歌山県）を開き、弘法大師としても知られる僧侶・空海（774-835）が、820年に創建したと伝わる。現在の建物は1645年に改築したものです。境内には、自分の運気を確かめる「運試しの鳥居」、良縁をもたらす「縁結びの笹」、おいしい日本酒の原料となる「酒の泉」、子宝・安産にご利益のある「子種石」などのみどころがあります。

表-1と表-2を比較して分かるように、「別宮」や「パワースポット」と言った日本人の感覚に頼った表現を避けている。また、そのものの由来、この場合は神社の創建者と時代を詳しく述べることで外国人観光客に対しては必要となる。

b) 砂防事業の説明の翻訳

日本の文化については言葉を選別した上で由来から詳述する必要があるが、砂防事業の説明になると技術的な説明をさらに翻訳の段階で説明するため冗長になり、文章がかなりのボリュームとなってしまい、従って翻訳用の日本語にするにはポイントを絞って簡素な表現にする必要がある。以下に砂防事業の説明についての翻訳用の日本語を例示する。

表-3 既存パンフレットの表記

幻の第1砂防堰堤  
 国による稲荷川の直轄砂防事業で、最初に建設された第1砂防堰堤（大正8年7月竣工）は、現在の第9砂防堰堤の少し上流側にあったと記録に残っています。川幅いっぱいには設置された大きな滑り台のような、当時としては珍しい形をした堰堤であったと伝えられています。コンクリートを使わず大きな岩を積み上げた、日光伝来の石造技術を駆使した堰堤でしたが、完成直後の大正8年9月暴風雨に伴う土石流によって流失。これをきっかけに、砂防堰堤の工法は石からコンクリートへと、大きく転換することとなりました。

表-4 表-3の翻訳用の日本語

幻の第1砂防堰堤  
 この堰堤は1919年7月に完成しました。日光伝来の石造り技術を駆使した堰堤でしたが、完成直後の1919年9月、暴風に伴う土石流によって流されました。これが転機となり、以降の砂防堰堤は、コンクリートを活用して建設されることになりました。

ここでのポイントは「直轄砂防事業」と言った日本人でも理解しづらい言葉を省いたことと、「現在の第9砂防堰堤の少し上流側」「大きな滑り台のような」と言った想像力を要する言葉を省いたことである。翻訳用の日本語を考えるためにこうしたポイントに留意しながら進めた。表記を簡素化することで翻訳しやすくなり、文章全体が短くなることで読みやすかつ理解しやすくなる。なお、表-5にこの英訳を示す。

表-5 表-4の英訳

The phantom Sabo Dam No. 1  
 This dam was completed in July 1919. Although it was built utilizing stone building techniques originating in Nikko, directly after it was completed, it was washed away due to debris flow from a storm in September 1919. This became a turning point, and since then sabo dams have been built with concrete.

日本文化や史跡の説明については日光市他言語解説整備支援事業検討協議会による事例集を用いた。しかし、砂防事業の説明は「日本の砂防」（一般社団法人全国治

水砂防協会）を参考にしながらゼロから作り上げた。こうして自ら考えた「翻訳用の日本語」は既存パンフレットの表現よりも理解しやすく、他の職員に意見を聞いたところ「既存の日本語パンフレットの説明を今回考えた翻訳用の日本語に替えた方が良いのではないか」との意見もあった。

(5) 多言語表示

(1)の調査結果を踏まえ、多言語パネル作成にあたっては、日本語と英語の他、台湾（中国語（繁体））、フランス語、スペイン語の翻訳を作成することとした。

パネル等には掲載できる字数に限りがあることから、日本語と英語のみパネルに表示し、他の言語についてはパネルにQRコードを付けてスマートフォン等で閲覧できるように整備した。



図-3 パネルとQRコード



図-4 QRコード設置箇所の拡大

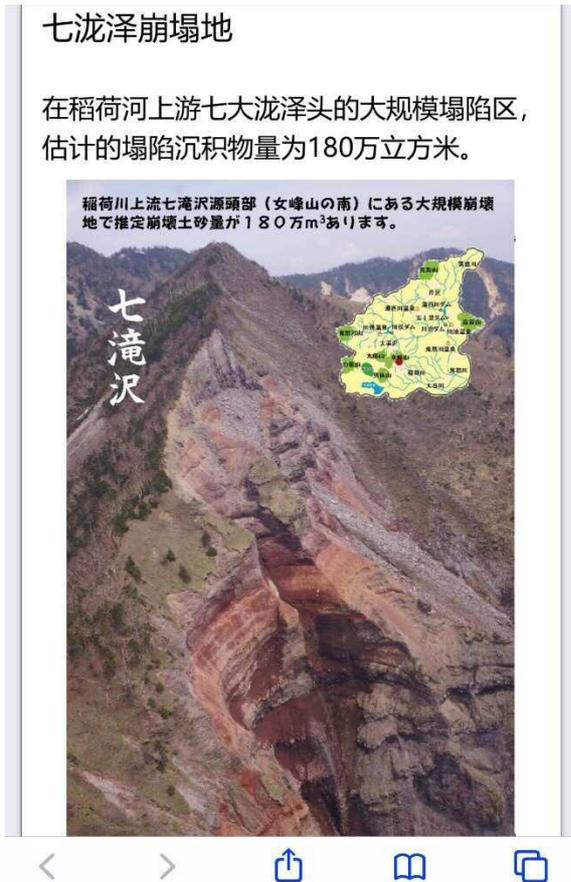


図-5 QRコードからアクセスした中国語版

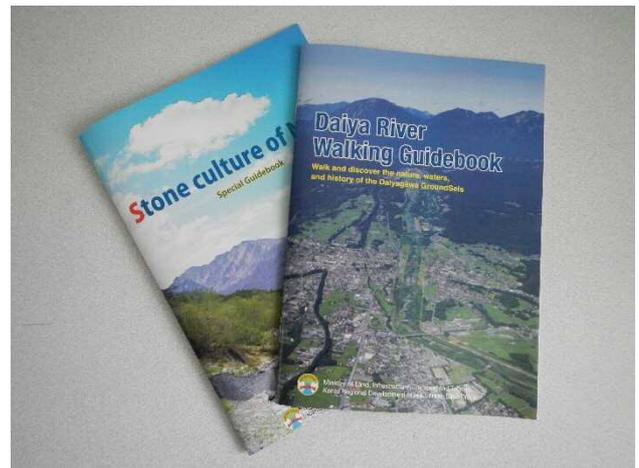


図-6 英訳パンフレット



図-7 稲荷川の看板設置状況

## 5. 成果

4. で示したプロセスでパンフレット、看板及びパネルを制作した。

これまで示したように、データ収集、観光庁の指針やその他既存刊行物の活用、翻訳のための日本語作成、翻訳と言った手順で進めた。

パンフレットと看板は令和2年3月末に完成した。しかし3月以降、日本を含めてCOVID-19のパンデミックにより日光地区においてもインバウンドが激減した。そのため効果の測定は困難となっている。

## 6. 課題

今後は実際に外国人観光客にパンフレットを読んでもらい、成果の確認をする必要がある。その際には次の点を主眼にして確認したい。

- 日本の文化は理解できたか
- 日本の自然災害は理解できたか
- 砂防堰堤の役割は理解できたか

日光は世界的な観光地であると同時に自然災害の多い地域であることから、砂防事業の広報に加えて訪日外国人を自然災害から守るため、気象庁や日光市が発信する防災情報や避難勧告等についても併せて周知していきたい。